

中部道路メンテナンスセンターにおける 地方公共団体支援の取組

奥川祐司¹

¹中部地方整備局 中部道路メンテナンスセンター 技術課（〒461-0047 愛知県名古屋市中区大幸南1-1-15）

橋梁等の定期点検は2014年に省令で定められてから、今年で2巡目の3年目となる。その中でも、地方公共団体の管理する橋梁数は多く、技術力・技術者不足が問題となっている。この課題を解決するため、中部地方整備局では、研修等を実施し技術者の育成、技術力向上にむけ取り組んでいる状況である。今回、中部道路メンテナンスセンター（以下、中部道路MC）が行っている地方公共団体への技術支援の取組みや今後の展開について報告する。

キーワード 橋梁メンテナンス、橋梁定期点検、地方公共団体支援

1. はじめに

全国の橋梁は約72万橋あり、建設後50年を超過した橋梁は2020年時点で約30%であり、10年後の2030年には55%と半数を超える。中部地方整備局では「急速に老朽化する社会資本の対策を強化するため、点検データを生かした、戦略的・効率的なメンテナンスを推進するための組織として」2019年4月に中部道路MCが設置された。なお、道路MCについては、同年に関東地方整備局、翌年に近畿、中国地方整備局に設置され現在全国で4カ所に設置されている。中部道路MCでは道路管理者への研修・診断・修繕の支援や、これまでの定期点検結果のデータ収集・分析、各県単位で開催する、道路メンテナンス会議やセミナーへの支援、中部道路MC内の施設を活用しての技術講習やメンテナンスの重要性を広く知っていただくための情報発信を行っている。関係機関との連携は図-1のとおりであり、地方公共団体からの技術相談・技術要請を受け、技術支援・指導を行っている。

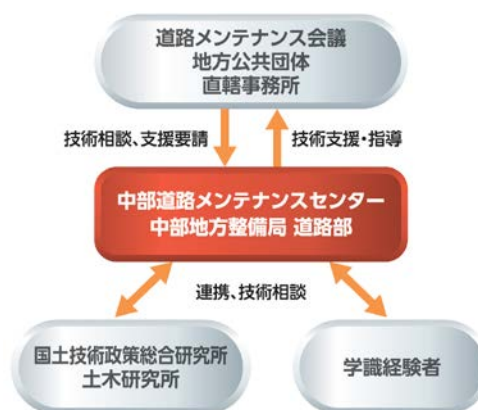


図-1 関係機関との連携

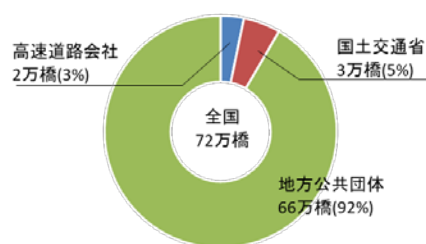


図-2 管理者別の点検対象橋梁数
急務であると考える。

2. 地方公共団体の課題

地方公共団体の課題のひとつとして、管理する橋梁数が多いことがあげられる。図-2に示すとおり、全国の橋梁約72万橋のうち、地方公共団体が管理する橋梁は約66万橋あり全体の9割を占めるなか、予算や技術力・技術者不足が問題となっている。特に技術者不足については、全市町村のうち約2割が、橋梁保全業務に携わる土木技術者が1人もいない状態となっており、技術者の育成が

3. 地方公共団体への支援

地方公共団体への支援の取組の一つとしてとして、中

部地方整備局が開催する道路管理実務者研修（以下、当研修）に講師として登壇している。定期点検を行ううえで、「点検を適正に行うために必要な知識及び技能を有する者が行うこと」と道路法施行規則第4条5の2に規定されており、当研修のうち橋梁初級Ⅰ研修の試験に合格すると必要な知識及び技能を有する者と認められる。当研修は2014年より実施されており、地方公共団体の直営点検において、点検実施者の保有資格や研修受講者の割合は図-3に示すとおりであり、当研修等の国が開催する研修受講者の割合は38%と割合が高く、技術者の育成に効果が出ていると考えられる。

また、地方公共団体へ赴き職員向けの点検研修や、現地での実習も開催している。

さらに、地方公共団体で管理する橋梁において、補修工法等の検討に高度な技術が必要とされる場合には、国による点検・診断を実施している。具体例として、2019年に、静岡県榛原郡吉田町において、直轄診断を実施した。中部道路MC長をリーダーとする道路メンテナンス技術集団7名を派遣し診断を行った。（図-4）

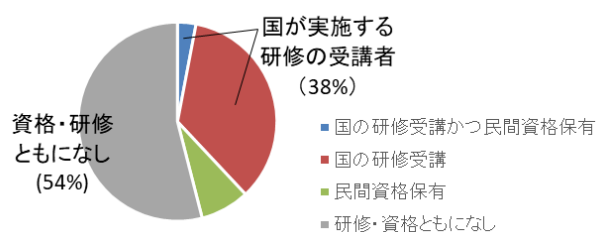


図-3 地方公共団体の直営点検



図-4 現地調査状況・吉田町と技術集団

4. 今後の展開

中部道路MCでは、様々な地方公共団体への支援を行ってきたが、地方公共団体の技術者が少ない状態が続いている。このため、新しく橋梁点検を始める方にも分かりやすく定期点検を理解できるように、直営点検を実施するための解説動画、用語集を作成中である。

解説動画については、定期点検の適応法令から点検の流れ、準備する用具や、点検時の留意点について、解説している。例えば、コンクリートの浮きや・剥離は点検ハンマーを用い、音の違いによって健全であるかを確

認をするが、解説動画では、健全な場所ととの色分けをし、音の違いを聞き比べて理解ができるようにする等、誰にでも分かるように工夫を行った。（図-5）

さらに、解説動画と併せて定期点検を行ううえで必要となる専門用語を解説する用語集を作成した。用語集についても図-6に示すように図や写真を加え、分かりやすい内容とした。

また、今までは各地方公共団体個別の支援であったが、今後は中部道路MCからの情報発信を積極的に行い、中部地域全域への支援につなげていきたい。その一つとしてメールマガジンの配信を考えており、解説動画と用語集についても完成後、中部道路MCのホームページに掲載し、地方公共団体等へメールマガジンにて周知を図る予定である。

5. おわりに

橋梁の定期点検が2巡目の3年目となった今も、地方公共団体では、技術力・技術者不足の課題を抱えている。中部道路MCの目標として掲げている「頼られる（頼りになる）中部道路MC」となるように、今回作成した解説動画や用語集を活用しつつ、地方公共団体等への技術支援や指導を継続的に行い、情報発信を積極的に行い、課題の解決につなげていきたい。



図-5 解説動画

部	用語	読み	解説	関連図表
10	アンカーボルト	あんかーぼると	実体と鋼製補強材などをコンクリートの構造や基礎に固定するため、コンクリート中に埋め込む鋼製の骨格構造。一般的に、ねじ切り加工した異形鉄筋や、異形丸鋼（棒鋼）にスパイラル鉄筋を巻きつけたものを用いる。	図-2 支床部の概要図
18	うき	うき	ひびわれがコンクリート内部でつながったり、コンクリート内部の鋼材が腐食により膨張し、コンクリート部材の表面付近がうけた状態をいう。	図-5 出典：施設管理資料「第748号 道路橋の定期点検に関する指導資料（2013年版）」平成26年度事例写真
238	浮板（ジャンカ）	まめいた（じゃんか）	コンクリート部材において、モルタルの充填不良により骨格材のみが露出している部分をいう。ジャンガ、暴、あばたともいう。	図-54 ジャンカの概要図

図-6 用語集